

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「インベスコ プレミア・プラス・ファンド」は、2023年5月22日に第17期の決算を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

*当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限	
運用方針	<ul style="list-style-type: none">投資信託証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産（コモディティ）を実質的な投資対象とし、投資信託財産の成長を図ることを目標として運用を行います。債券、株式、資源資産3資産の配分については、市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して決定します。また、短期的な市場変化に機動的に対応した運用を行います。実質外貨建資産については、実質的に為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。	
主要運用対象	インベスコ プレミア・ プラス・ファンド	「インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド」および「インベスコ マネーボール・ファンド（適格機関投資家私募投信）」を主要投資対象とします。
	インベスコ バランスト・リスク・ アロケーション マザーファンド	別に定める投資信託証券※への投資を通じて、日本を含む世界各国の債券、株式、コモディティに実質的に投資します。 ※別に定める投資信託証券とは、ルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンドクラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘッジ付）です。
	インベスコ マネーボール・ファンド （適格機関投資家私募投信）	主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資します。
組入制限	<ul style="list-style-type: none">投資信託証券（マザーファンド受益証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。株式への直接投資は行いません。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。デリバティブ取引の直接利用は行いません。	
分配方針	原則として年2回の毎決算時（5・11月の各20日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。	

<運用報告書に関するお問い合わせ先>

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
お問い合わせダイヤル

電話番号：(03) 6447-3100

受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時



インベスコ プレミア・プラス・ファンド

愛称：真分散革命

追加型投信／内外／資産複合



運用報告書（全体版）

第17期
（決算日 2023年5月22日）

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

<https://www.invesco.com/jp/ja/>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	騰落		投資信託 組入比率	純資産 総額
		税金	分配		
	円		円	%	百万円
13期(2021年5月20日)	12,267		0	8.8	2,172
14期(2021年11月22日)	12,857		0	4.8	3,017
15期(2022年5月20日)	11,750		0	△8.6	3,358
16期(2022年11月21日)	10,794		0	△8.1	3,377
17期(2023年5月22日)	10,378		0	△3.9	3,199

(注) 基準価額は1万円当たりです。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れていますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しています。

(注) 当ファンドは債券、株式、資源資産（コモディティ）を実質的な投資対象とし、市場環境や価格変動の大きさなどを考慮した資産配分を行うため、適切なベンチマークまたは参考指数が存在しません。このためベンチマークまたは参考指数を掲載していません。以下同じです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率		投資信託 組入比率
		騰落	騰落	
(期首)	円		%	%
2022年11月21日	10,794		—	99.1
11月末	10,824		0.3	98.8
12月末	10,482		△2.9	98.3
2023年1月末	10,828		0.3	99.1
2月末	10,444		△3.2	99.1
3月末	10,518		△2.6	99.4
4月末	10,468		△3.0	99.5
(期末)				
2023年5月22日	10,378		△3.9	100.0

(注) 基準価額は1万円当たりです。

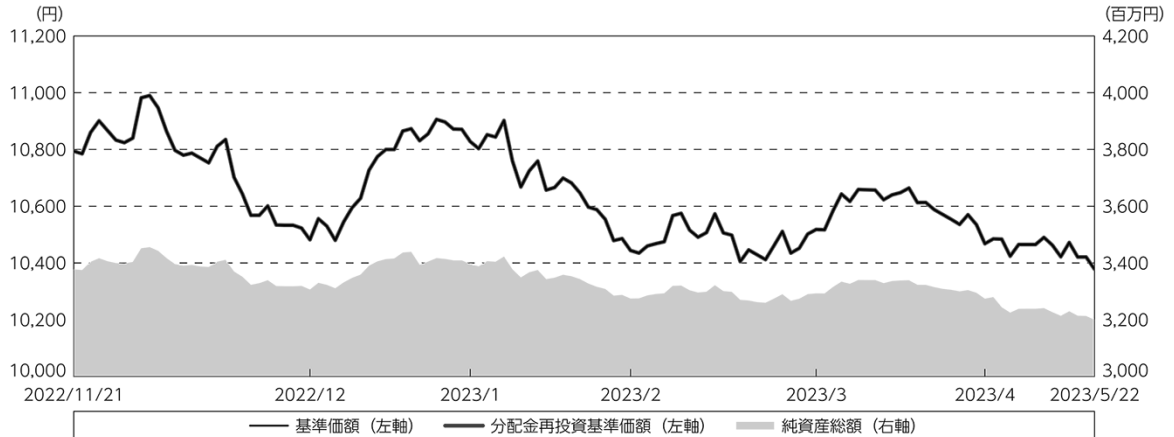
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れていますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しています。

○運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年11月22日～2023年5月22日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2022年11月21日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の変動要因

[上昇要因]

- ・日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産(コモディティ)を実質的な投資対象としているため、投資対象地域の株式市場の上昇や貴金属価格の上昇が、基準価額の上昇要因となりました。
- ・市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して債券、株式、資源資産の配分を決定した結果、株式市場が上昇する環境下、期を通じて同ポジションの資産配分を多め(オーバーウェイト)としたことが、基準価額の上昇要因となりました。

[下落要因]

- ・日本を含む世界各国の債券、株式、コモディティを実質的な投資対象としているため、投資対象国で概ね長期金利が上昇したこと（債券価格は下落）やエネルギー価格の下落が、基準価額の下落要因となりました。
- ・市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して債券、株式、資源資産の配分を決定した結果、エネルギー価格が下落する環境下、期を通じて同ポジションをオーバーウェイトとしたことが、基準価額の下落要因となりました。

投資環境

《債券市場》

米国30年国債利回り	3.97% (前期末 3.90%)	英国10年国債利回り	4.06% (同 3.19%)
ドイツ10年国債利回り	2.46% (同 1.99%)	日本10年国債利回り	0.39% (同 0.25%)

※上記は当期末の数値です。

当期の世界の債券市場は、日本と豪州を除くすべての投資対象国で長期金利が上昇しました。インフレのピークアウト期待や2023年3月の金融システム不安、景気悪化懸念などを背景に低下する局面もあったものの、欧米での利上げ長期化観測などを背景に、欧米の国債利回りは上昇傾向で推移し、日本と豪州はほぼ横ばいで推移しました。

《株式市場》

S&P500 指数 (米国)	+6.1%	FTSE100 指数 (英国)	+5.3%
DAX 指数 (ドイツ)	+12.8%	CAC40 指数 (フランス)	+12.7%
TOPIX (東証株価指数) (日本)	+10.3%		

※株価指数の騰落率は当期末時点（対前期末比）の数値です。

当期の世界の株式市場は、すべての投資対象国で上昇しました。欧米の金融機関の経営不安などが重しとなったものの、各国の中央銀行の迅速な対応により株式市場が反転したことや、中国のゼロコロナ政策の終了に伴う経済活動の正常化への期待を受けて、各国の株式市場は上昇しました。

《資源資産市場》

エネルギー (WTI 原油)	△5.7%	工業金属 (銅)	+5.1%
貴金属 (金)	+13.2%	農産物 (RICI)	+0.2%

※騰落率は当期末時点（対前期末比）の数値です。代表的なETCの価格を用いて計算しています。

当期の資源資産市場は、資産によってまちまちとなりました。エネルギーは、欧州での暖冬のほか、中国の景気減速懸念を受けて原油価格は下落しました。工業金属は、前半に中国のゼロコロナ

政策の終了に伴う経済活動の正常化への期待を受けて大きく上昇した後に、景気減速懸念を受けて銅価格は軟調に推移し、小幅な上昇となりました。貴金属は、米連邦準備理事会（F R B）の利上げペースが鈍化するとの見通しや、欧米での金融システム不安を受けて需要を集め、金価格は上昇しました。農産物は、ウクライナ産穀物での輸出再開を受け、小麦を中心に穀物価格は下落しましたが、インドでの干ばつやブラジルでの多雨を受けて世界の砂糖供給懸念が高まり砂糖価格が上昇し、農産物価格では横ばいとなりました。

当ファンドのポートフォリオ

インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド（以下、マザーファンドといます。）を高位に組み入れ、日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産に実質的に投資し、さまざまな経済局面において安定したリターンの獲得をめざしました。残余部分はインベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）（以下、マネープール・ファンドといます。）を組み入れ、安定した収益の確保を図りました。

マザーファンドでは、主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘッジ付）に投資を行いました。同外国投資信託では、債券、株式、資源資産の資産配分については、市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して決定しました。また、短期的な市場変化に機動的に対応した運用を行いました。債券、株式への投資は当該資産への直接投資や上場投資信託証券（以下、「E T F」といいます。）への投資の他、デリバティブ取引を活用しました。また、資源資産への投資はE T F、指数連動債などへの投資の他、デリバティブ取引を活用しました。

市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して各資産クラスにてロング・ポジションを形成するとともに、短期的な市場変化に機動的に対応するため、独自のモデルによって、以下のような資産配分を行いました。

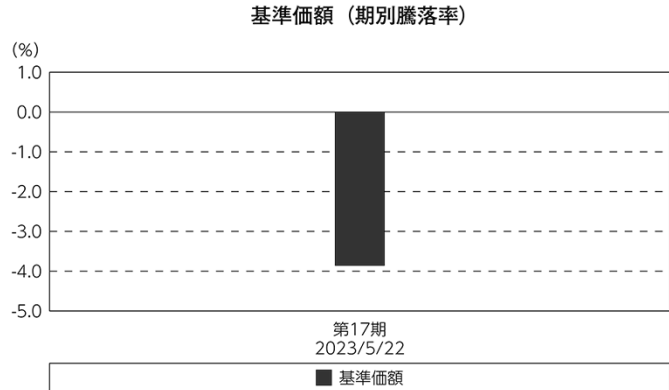
- ・株式は、期を通じて英国と欧州、日本を中心にオーバーウェイトを継続しました。
- ・債券は、期初はすべての投資対象国でアンダーウェイトとしましたが、2023年4月からは豪州と日本を、5月からはカナダをオーバーウェイトとしました。
- ・資源資産は、期を通じてエネルギーをオーバーウェイトとし、工業金属と貴金属をアンダーウェイトとしました。農産物は、期初はオーバーウェイトとしましたが、2023年3月以降はアンダーウェイトとしました。

マネープール・ファンドでは、資産規模などを勘案し、短期金融商品による運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、運用の目標となるベンチマークや参考指数を設けておりません。

右記のグラフは、当期の基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向などを勘案し、当期は見送りとさせていただきます。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第17期
	2022年11月22日～ 2023年5月22日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,790

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下四捨五入して算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

マザーファンドを高位に組み入れ、日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産に実質的に投資し、さまざまな経済局面において安定したリターンの獲得をめざします。残余部分はマネープール・ファンドを組み入れ、安定した収益の確保を図ります。

マザーファンドでは、主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券(円ヘッジ付)に投資を行います。同外国投資信託では、債券、株式、資源資産の配分については、市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して決定します。また、短期的な市場変化に機動的に対応した資産配分も行います。前記の方針に基づき、毎月月初時点での投資判断をもとにリバランスを行いながら、今後も規律あるプロセスに従った運用を行っていきます。なお、株式、債券、ETF、コモディティ指数連動債などへの投資に加え、デリバティブ取引を活用します。

マネープール・ファンドでは、円貨建ての短期公社債および短期金融商品を中心に運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年11月22日～2023年5月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	50	0.472	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(5)	(0.044)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(44)	(0.411)	購入後の情報提供、運用報告書等各种資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.016)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	4	0.041	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.012)	監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(3)	(0.030)	印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理に要する費用
合 計	54	0.513	
期中の平均基準価額は、10,594円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

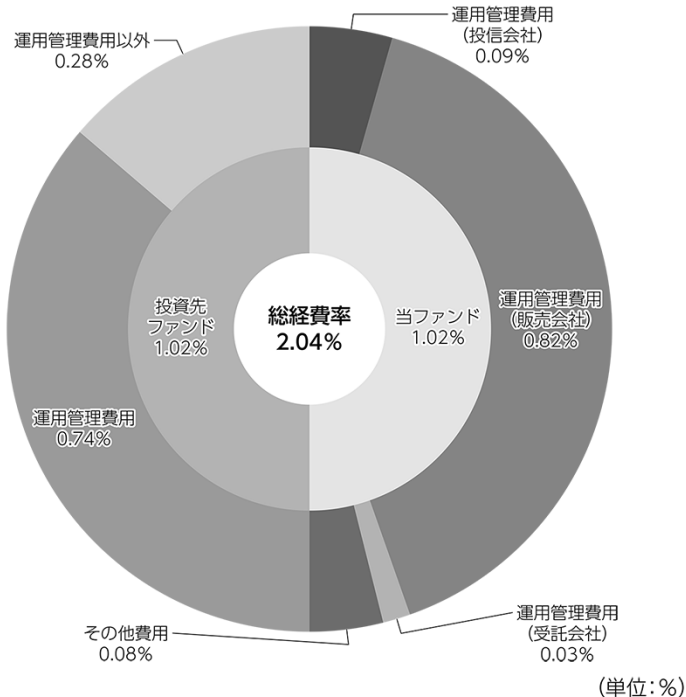
(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.04%です。



総経費率(①+②+③)	2.04
①当ファンドの費用の比率	1.02
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.74
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.28

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、親投資信託を通じて当ファンドが組み入れている投資信託証券および当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年11月22日～2023年5月22日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
インベスコ バランス・リスク・アロケーション マザーファンド	千口 98,774	千円 114,605	千口 155,621	千円 180,303

(注) 単位未満は切捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2022年11月22日～2023年5月22日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2023年5月22日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
インベスコ マネーブル・ファンド (適格機関投資家私募投信)	千口 1,499	千口 1,499	千円 1,489	% 0.0
合 計	1,499	1,499	1,489	0.0

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨てています。

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
インベスコ バランス・リスク・アロケーション マザーファンド	千口 2,891,594	千口 2,834,747	千円 3,215,454

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨てています。

○投資信託財産の構成

(2023年5月22日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 1,489	% 0.0
インベスコ バランスド・リスク・アロケーション マザーファンド	3,215,454	99.9
コール・ローン等、その他	968	0.1
投資信託財産総額	3,217,911	100.0

(注) 金額の単位未満は切捨てています。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年5月22日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	3,217,911,182
投資信託受益証券(評価額)	1,489,104
インベスコ バランス・リスクリザーブション マザーファンド(評価額)	3,215,454,086
未収入金	967,992
(B) 負債	18,063,728
未払解約金	967,992
未払信託報酬	15,717,442
その他未払費用	1,378,294
(C) 純資産総額(A－B)	3,199,847,454
元本	3,083,342,620
次期繰越損益金	116,504,834
(D) 受益権総口数	3,083,342,620口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,378円

<注記事項> (当運用報告書作成時点では監査未了です。)

(貸借対照表関係)

期首元本額	3,129,137,086円
期中追加設定元本額	107,693,812円
期中一部解約元本額	153,488,278円

○損益の状況 (2022年11月22日～2023年5月22日)

項 目	当 期
	円
(A) 有価証券売買損益	△109,581,699
売買益	2,526,488
売買損	△112,108,187
(B) 信託報酬等	△17,095,736
(C) 当期損益金(A+B)	△126,677,435
(D) 前期繰越損益金	△247,221,633
(E) 追加信託差損益金	490,403,902
(配当等相当額)	(594,211,431)
(売買損益相当額)	(△103,807,529)
(F) 計(C+D+E)	116,504,834
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	116,504,834
追加信託差損益金	490,403,902
(配当等相当額)	(594,211,313)
(売買損益相当額)	(△103,807,411)
分配準備積立金	266,172,441
繰越損益金	△640,071,509

(注) (A) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (B) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金の計算過程は以下の通りです。
 計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定する収益調整金(594,211,313円)および分配準備積立金(266,172,441円)より分配対象収益は860,383,754円(1万口当たり2,790円)となりましたが、基準価額水準、市況動向等を勘案し、当期の分配を見合わせました。

○分配金のお知らせ

当期の収益分配は見送らせていただきました。



運用報告書

第8期

決算日 2022年11月21日

(計算期間：2021年11月23日から2022年11月21日まで)

運用方針	<ul style="list-style-type: none">・主として、別に定める投資信託証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の債券、株式、コモディティに投資します。なお、別に定める投資信託証券においては、債券、株式への投資は、当該資産への直接投資の他、先物取引、オプション取引などのデリバティブ取引を活用します。また、コモディティへの投資は、上場投資証券、指数連動債などへの投資の他、デリバティブ取引を活用します。・別に定める投資信託証券への投資を通じて、債券、株式、コモディティ3資産の配分については、市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して決定します。また短期的な市場変化に機動的に対応した運用を行います。・投資信託証券への投資割合は、原則として、高位に保ちます。・別に定める投資信託証券において、その運用方針として対円で為替ヘッジを行うことを掲げている場合は、原則として為替ヘッジを行いません。別に定める投資信託証券において、為替変動の影響を受ける実質組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。・投資対象とする投資信託証券は、委託者の判断により変更することがあります。
主要運用対象	別に定める投資信託証券※ ※別に定める投資信託証券とは、ルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘッジ付）です。
組入制限	<ul style="list-style-type: none">・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。・株式への直接投資は行いません。・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。・デリバティブ取引の直接利用は行いません。

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

<https://www.invesco.com/jp/ja/>

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	騰 落 率		投 資 信 託 券 率	純 資 産 額
		期 騰	中 率		
	円		%	%	百万円
4期(2018年11月20日)	10,607	△	4.8	98.2	179
5期(2019年11月20日)	11,515		8.6	96.5	1,362
6期(2020年11月20日)	12,023		4.4	97.0	1,762
7期(2021年11月22日)	13,848		15.2	97.4	3,034
8期(2022年11月21日)	11,736	△	15.3	98.5	3,393

(注) 基準価額は1万円当たりです。

(注) 当ファンドは債券、株式、資源資産（コモディティ）を実質的な投資対象とし、市場環境や価格変動の大きさなどを考慮した資産配分を行うため、適切なベンチマークまたは参考指数が存在しません。このためベンチマークまたは参考指数を掲載していません。以下同じです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		投 資 信 託 券 率
		騰	落 率	
(期 首) 2021年11月22日	円 13,848		% -	% 97.4
11月末	13,503	△	2.5	99.0
12月末	13,747	△	0.7	98.4
2022年1月末	13,090	△	5.5	97.2
2月末	13,186	△	4.8	98.8
3月末	13,493	△	2.6	97.3
4月末	12,978	△	6.3	99.0
5月末	12,942	△	6.5	98.5
6月末	12,256	△	11.5	98.8
7月末	12,492	△	9.8	98.6
8月末	12,392	△	10.5	98.3
9月末	11,227	△	18.9	99.2
10月末	11,599	△	16.2	98.5
(期 末) 2022年11月21日	円 11,736	△	15.3	98.5

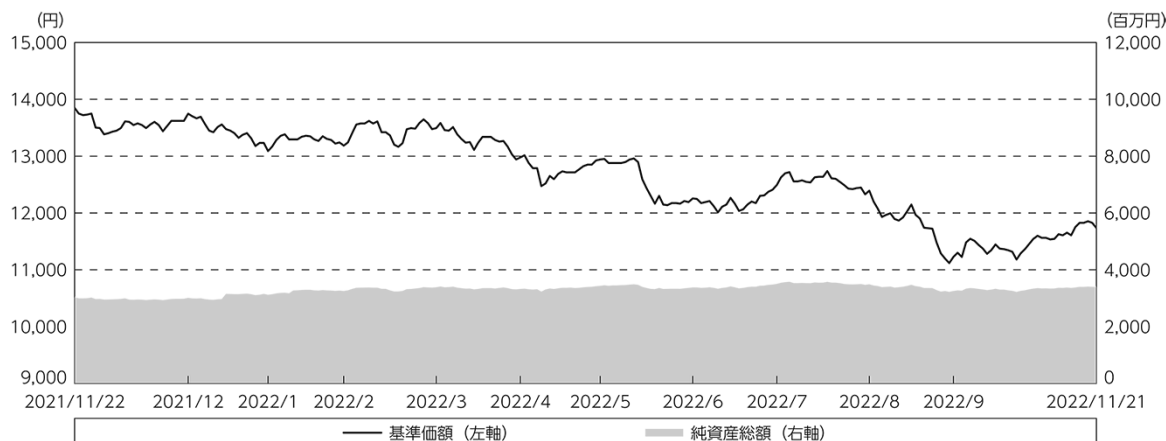
(注) 基準価額は1万円当たりです。

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

期中の基準価額等の推移

(2021年11月23日～2022年11月21日)



期首：13,848円
 期末：11,736円
 騰落率：△15.3%

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の変動要因

[上昇要因]

- ・日本を含む世界各国の債券、株式、資源資産（コモディティ）を実質的な投資対象としているため、英国の株式市場の上昇や、エネルギー、農産物などのコモディティの価格上昇が基準価額の上昇要因となりました。
- ・市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して債券、株式、コモディティの配分を決定した結果、各国の長期金利が上昇（債券価格は下落）する環境下、期の前半に日本を除き債券の資産配分を少なめ（アンダーウェイト）としたことが、基準価額の上昇要因となりました。

[下落要因]

- ・日本を含む世界各国の債券、株式、コモディティを実質的な投資対象としているため、英国を除く株式市場の下落やすべての投資対象市場の長期金利の上昇、工業金属や貴金属などのコモディティの価格下落などが基準価額の下落要因となりました。
- ・市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して債券、株式、コモディティの配分を決定した結果、株式市場が下落する環境下、期を通じて株式の資産配分を多め（オーバーウェイト）としたことが、基準価額の下落要因となりました。

投資環境

《債券市場》

米国30年国債利回り	3.90% (前期末 1.96%)	英国10年国債利回り	3.19% (同 0.93%)
ドイツ10年国債利回り	1.99% (同△0.30%)	日本10年国債利回り	0.25% (同 0.08%)

※上記は当期末の数値です。

当期の世界の債券市場は、長期金利が上昇しました。2022年2月末に、ロシアがウクライナに軍事侵攻を開始した影響により、エネルギー価格を中心にインフレが高進したこと、2022年3月に米連邦準備理事会（FRB）が政策金利の利上げを開始し、その後6会合連続で利上げを行ったこと、7月には欧州中央銀行（ECB）が利上げを開始し、その後3会合連続で利上げを行ったことなどから、各国の国債利回りは上昇しました。

《株式市場》

S&P500指数（米国）	△15.7%	FTSE100指数（英国）	+1.7%
DAX指数（ドイツ）	△10.8%	CAC40指数（フランス）	△6.6%
TOPIX（東証株価指数）（日本）	△3.4%		

※株価指数の騰落率は当期末時点（対前期末比）の数値です。

当期の世界の株式市場は米国と大陸欧州を中心に下落しました。原油高や物価の上昇に伴うインフレ懸念や、ロシアがウクライナに軍事侵攻したことによる地政学リスクの高まり、FRB、ECBをはじめとする各国中央銀行による複数回の利上げがおこなわれたことなどから、株価は下落しました。

《資源資産市場》

エネルギー（WTI原油）	前期比末+25.6%	工業金属（銅）	△18.0%
貴金属（金）	△4.2%	農産物（RICI）	+6.1%

※騰落率は当期末時点（対前期末比）の数値です。代表的なETCの価格を用いて計算しています。

当期の資源資産市場は、エネルギーと農産物が上昇し、工業金属と貴金属が下落しました。エネルギーは、経済制裁に伴うロシアからの禁輸措置を背景とする供給の逼迫懸念を受けて、原油価格は上昇しました。工業金属は、中国のゼロコロナ政策の長期化に伴う景気減速懸念の高まりを受けて、銅価格は下落しました。農産物は、穀倉地帯であるロシア・ウクライナ地域での紛争勃発に伴う供給への懸念から、主要な農産物が上昇しました。貴金属は、米国金利の上昇と米ドル高を受けて、金価格は下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

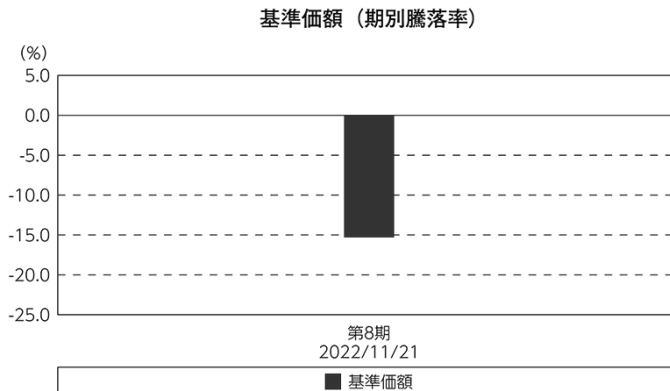
主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘッジ付）に投資を行いました。同外国投資信託では、債券、株式、資源資産の資産配分については、市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して決定しました。また、短期的な市場変化に機動的に対応した運用を行うため、独自のモデルによって、以下のような資産配分を行いました。

- ・株式は、前半は概ね全ての投資対象国でオーバーウェイトとし、後半には新興国と米国をアンダーウェイトとし、他の投資対象国はオーバーウェイトを維持しました。
- ・債券は、前半は英国と米国を中心にアンダーウェイトとしました。2022年5月からは米国はオーバーウェイトに転じましたが、8月以降は再び英国と米国をアンダーウェイトとし、その間、他の投資対象国はオーバーウェイトとしました。11月にはすべての投資対象国でアンダーウェイトとしました。
- ・資源資産は、エネルギーは、前半はアンダーウェイトとし、2022年4月以降はオーバーウェイトに転じました。貴金属は、前半はオーバーウェイトとし、6月からはアンダーウェイトに転じました。工業金属は2022年1月と4月にオーバーウェイトとする場面もありましたが、総じてアンダーウェイトを維持しました。農産物は、期を通じてほぼ中立としました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、運用の目標となるベンチマークや参考指数を設けておりません。

右記のグラフは、当期の基準価額騰落率です。



○今後の運用方針

主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券(円ヘッジ付)に投資を行います。同外国投資信託では、債券、株式、資源資産の配分については、市場環境や価格変動の大きさなどを考慮して決定します。また、短期的な市場変化に機動的に対応した資産配分も行います。前記の方針に基づき、毎月月初時点での投資判断をもとにリバランスを行いながら、今後も規律あるプロセスに従った運用を行っていきます。なお、株式、債券、コモディティ上場投資証券、コモディティ指数連動債などへの投資に加え、デリバティブ取引を活用します。

○当ファンドのデータ

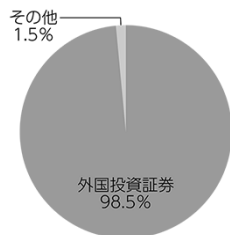
(2022年11月21日現在)

【組入上位ファンド】

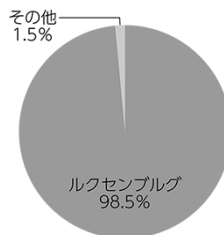
銘柄名	第8期末
インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation	% 98.5
組入銘柄数	1銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

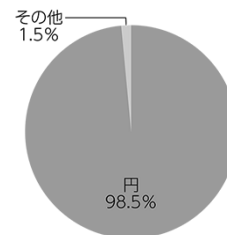
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

○1万口当たりの費用明細

(2021年11月23日～2022年11月21日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2021年11月23日～2022年11月21日)

投資信託証券

銘	柄	買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国内	インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation	千口 707	千円 990,000	千口 44	千円 60,000

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2021年11月23日～2022年11月21日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2022年11月21日現在)

国内投資信託証券

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末		
		口 数	口 数	評 価 額	比 率
		千口	千口	千円	%
	インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation	1,957	2,620	3,344,109	98.5
合 計	口 数 ・ 金 額	1,957	2,620	3,344,109	
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	1	< 98.5% >	

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨てています。

○投資信託財産の構成

(2022年11月21日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資証券	3,344,109	98.5
コール・ローン等、その他	49,444	1.5
投資信託財産総額	3,393,553	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てています。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年11月21日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	3,393,553,704
コール・ローン等	49,444,524
投資証券(評価額)	3,344,109,180
(B) 負債	78,071
未払解約金	77,936
未払利息	135
(C) 純資産総額(A-B)	3,393,475,633
元本	2,891,594,548
次期繰越損益金	501,881,085
(D) 受益権総口数	2,891,594,548口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,736円

<注記事項>

(貸借対照表関係)

- 期首元本額 2,191,479,437円
 期中追加設定元本額 1,068,503,409円
 期中一部解約元本額 368,388,298円
- 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額
 インベスコ プレミア・プラス・ファンド 2,891,594,548円
 合計 2,891,594,548円

○損益の状況

(2021年11月23日～2022年11月21日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 58,915
支払利息	△ 58,915
(B) 有価証券売買損益	△541,859,964
売買損	△541,859,964
(C) 当期損益金(A+B)	△541,918,879
(D) 前期繰越損益金	843,191,862
(E) 追加信託差損益金	301,228,853
(F) 解約差損益金	△100,620,751
(G) 計(C+D+E+F)	501,881,085
次期繰越損益金(G)	501,881,085

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

(参考情報)

ルクセンブルグ籍外国投資法人 インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド

「インベスコ バランス・リスク・アロケーション マザーファンド」が主要投資対象として
いる「インベスコ・バランス・リスク・アロケーション・ファンド」の直近の情報は以下の通
りです。

当ファンドは、「インベスコ バランス・リスク・アロケーション マザーファンド」が投資
対象とするルクセンブルグ籍外国投資法人が発行するクラスC-Accumulation投資信託証券（円ヘ
ッジ付）です。

○ファンドの仕組み

形 態	ルクセンブルグ籍外国投資法人
投 資 対 象	債券、株式、コモディティの3資産に投資します。
運 用 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な金融市場と低中相関で、中長期的にトータル・リターンを得ることを目標とします。 ・3資産への投資に当たっては、景気減速期、経済成長期、インフレ期といった経済環境において異なる値動きをする資産間で、戦略的配分および戦術的配分を行います。 ・原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
管 理 会 社	インベスコ・マネジメント・エス・エイ
投資顧問会社	インベスコ・アドバイザーズ・インク
決 算 日	毎年2月末
分 配 方 針	分配は行いません。

インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンドは、現地の法律に基づいて財務諸表が作成され、公認会計士により財務書類の監査を受けております。以下に掲載している情報は、2022年2月28日現在のFINANCIAL STATEMENTSから抜粋しております。

○損益計算書及び純資産額変動計算書

(2022年2月28日に終了した年度)
(単位：ユーロ)

収益	
受取利息（債券）	738,209
マーケットディスカウントの増価／（マーケットプレミアムの償却）	(7,719,747)
スワップに係る純受取利息	300,046
証券貸付利息	7,543
その他収益	96,446
	<u>(6,577,503)</u>
費用	
運用及び投資顧問会社報酬	20,037,460
サービス代行報酬	4,139,925
保管報酬	245,886
税金	924,185
事務代行費用	151,381
当座借越利息	2,074,052
スワップに係る支払純利息	2,717,819
その他運営費用	70,258
運営費用上限超過額	(2,202)
その他運営費用	854
	<u>30,359,618</u>
当期投資純利益／（損失）	<u>(36,937,121)</u>
受益証券発行／（買戻）による純収益／（支払）金	21,527,902
投資有価証券、デリバティブ及び外国通貨の処分に係る実現純利益／（損失）	130,716,576
為替先物予約に係る未実現評価益／損の純変動額	9,673,503
先物契約に係る未実現評価益／損の純変動額	(37,005,856)
コモディティ・スワップに係る未実現評価益／損の純変動額	(2,144,686)
トータル・リターン・スワップに係る未実現評価益／損の純変動額	(10,254,988)
オプション／スワプションに係る未実現評価益／損の純変動額	25,500,773
投資有価証券に係る未実現評価益／損の純変動額	3,198,140
外国通貨及びその他取引に係る未実現評価益／損の純変動額	1,032,233
期首純資産額	<u>1,736,432,515</u>
期末純資産額	<u>1,841,738,991</u>

○投資有価証券明細表

(2022年2月28日現在)			
銘柄	額面/株数	時価 (ユーロ)	純資産に占める 割合 (%)
公的な証券取引所に上場を認められているまたは他の規制市場で取引されている譲渡性のある有価証券			
債券			
カナダ			
Canadian Imperial Bank of Commerce FRN 0% USD 30/11/2022	97,000,000	106,072,713	5.76
Royal Bank of Canada/Toronto 0% USD 31/10/2022	12,300,000	14,007,357	0.76
Royal Bank of Canada/Toronto 0% USD 30/11/2022	40,000,000	43,801,932	2.38
Royal Bank of Canada/Toronto 0% USD 13/02/2023	61,500,000	56,731,224	3.08
		220,613,226	11.98
フィンランド			
Finland Government Bond 144A 0% EUR 15/04/2022	65,000,000	65,046,800	3.53
ドイツ			
Bundesschatzanweisungen 0% EUR 10/06/2022	86,000,000	86,165,980	4.68
Bundesschatzanweisungen 0% EUR 16/09/2022	45,000,000	45,161,100	2.45
German Treasury Bill 0% EUR 23/03/2022	80,000,000	80,034,400	4.35
German Treasury Bill 0% EUR 21/04/2022	85,000,000	85,092,650	4.62
German Treasury Bill 0% EUR 18/05/2022	55,000,000	55,088,825	2.99
German Treasury Bill 0% EUR 20/07/2022	50,000,000	50,137,500	2.72
German Treasury Bill 0% EUR 24/08/2022	90,000,000	90,311,850	4.90
German Treasury Bill 0% EUR 21/09/2022	80,000,000	80,324,400	4.36
German Treasury Bill 0% EUR 19/10/2022	50,000,000	50,224,750	2.73
		622,541,455	33.80
オランダ			
Dutch Treasury Certificate 0% EUR 30/03/2022	50,000,000	50,032,898	2.72
Dutch Treasury Certificate 0% EUR 28/04/2022	25,409,836	25,443,688	1.38
Dutch Treasury Certificate 0% EUR 30/05/2022	25,000,000	25,049,235	1.36
Dutch Treasury Certificate 0% EUR 30/08/2022	50,000,000	50,182,630	2.73
		150,708,451	8.19
債券合計		1,058,909,932	57.50
証書			
アイルランド			
Invesco Physical Gold ETC	437,000	71,915,619	3.90
証書合計		71,915,619	3.90

銘柄	額面/株数	時価 (ユーロ)	純資産に占める 割合 (%)
公的な証券取引所に上場を認められているまたは他の 規制市場で取引されている譲渡性のある有価証券合計		1,130,825,551	61.40
2010年12月17日の集団投資事業に関する法律 第41条1Hに規定される短期金融商品			
Societe Generale SA (Call account)0% EUR	201,000,000	201,000,000	10.91
2010年12月17日の集団投資事業に関する法律 第41条1Hに規定される短期金融商品合計		201,000,000	10.91
オープン・エンド型投資信託			
アイルランド			
Invesco Liquidity Funds plc - Invesco Euro Liquidity Portfolio	168,512,149	164,471,902	8.93
オープン・エンド型投資信託合計		164,471,902	8.93
投資有価証券合計		1,496,297,453	81.24

(参考情報)

インベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）

○ファンドの仕組み

商品分類	追加型投信／国内／債券
信託期間	無期限
運用方針	主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を図ることを目標として運用を行います。
主要運用対象	主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資します。
組入制限	・株式への投資は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建て資産への投資は行いません。
分配方針	原則として年1回の毎決算時（11月20日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

○組入資産の明細

(2022年11月21日現在)

2022年11月21日現在、有価証券等の組入れはございません。

○損益の状況

(2021年11月23日～2022年11月21日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 2,194
支払利息	△ 2,194
(B) 当期繰越損益金(A)	△ 2,194
(C) 前期繰越損益金	△12,675
(D) 追加信託差損益金	73
(配当等相当額)	(45)
(売買損益相当額)	(28)
(E) 計(B+C+D)	△14,796
(F) 収益分配金	0
次期繰越損益金(E+F)	△14,796
追加信託差損益金	73
(配当等相当額)	(45)
(売買損益相当額)	(28)
分配準備積立金	48
繰越損益金	△14,917

(注) (D)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金の計算過程は以下の通りです。
計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定する収益調整金(45円)および分配準備積立金(48円)より分配対象収益は93円(1万口当たり0.39円)ですが、当期に分配した金額はありません。